

ひまわりからの メッセージ

78号

2017.11.13

NPO ひまわりの花内

西濃圏域

発達障がい支援センター

発行人：中野にみ子

立冬を迎えて



樹々の紅葉が美しくなり、秋が深まってきたと思っていれば、暦の上では立冬になり、時雨の日が多くなりました。

この季節になると、徳富蘆花の『自然と人生』の一節が頭に浮かぶのは、若い頃の記憶のなせるわざだと思いつつ、昨日読んだ本の内容を、もう忘れてしまっていることに慄然とします。これも、立冬に入った灰色の脳細胞のせいでしょう。

ところで、そんな私に元気をくれているものは、やはり子ども達との関わりなのだろうと思います。

就学を控えたAちゃんは、ドラえもんが大好き。「そう、Aちゃんはドラえもんが大好きなんだね。先生は忘れちゃったけど、何とかコフターってあったよね。」ああ、タケコフター。「そうそう、何とかコフターってあったよね。」うん。どこでもドアだよ。等と話しているとAちゃんの瞳が生き生きしています。そんなキラキラし

た瞳に会うと、私は嬉しくなります。

先日、歴史好きの少年に会いました。「どの時代が好き？」
「戦国時代と江戸時代。」へえ、じゃあ関ヶ原合戦のことも知ってるんだね。「うん。」東軍と西軍とどちらが勝ったんだっけ。「東軍！」等々会話を重ね、私が好きな石田三成や佐和山城のことなどにも話が及びました。少年よりも少しだけ知っていることが多かったので、別れ際に「今度また歴史のクイズしようね。でも先生は古代史は苦手なんだ。だから古代史の問題は出さないでね。」と言っておきました。き、と彼は今度会う時には私をやりこめるべく古代史のクイズを用意するだろうと期待しながら別れたのでした。

発達上のつまずきがある子、園や学校で自分の思いが伝えられずに様々な行動を起こしてしまつ子など困っている子どもたちに出会って話をするのが楽しいのも、私が子どもたちから力を与えてもらえるからだと思います。子どもたちと話していると「子どもっていいなあ」「子どもってすごいなあ」「何てかわいいんだろっ」「……そんな感情が沸々と湧き上がってくるのを感じるので、そして、私ももう一度幼い頃に、少女の頃に戻れたらいいのに……」と思います。どんなことにも興味をもって、キラキラした瞳で周りを観て、聴こうとしている子どもたちの良さをもっともっと引き出してあげられたらいいな、形ばかりにこだわらずに……。そして、それは大人の役目でもあります。

ひらがな学習の基礎

小学校を訪問して、クラスの子どもたちの学習や掲示物を見てみると、「この子は、きっと困っているんだろうなあ」と、気になることがあります。

板書写しに時間がかかる子の中には、一文字ずつしか写せない子、写した後に黒板に目を移しているけれど、写した次の所がなかなか見つけられない子、先生が板書されたものと同じ位置関係でとらえることができない子、文字の形がうまくとれない子、漢字で書いてあるのに、ひらがなで書いてくる子、漢字がまちがっている子、文章が正しく写せず文字の省略がある子等々、いろいろ困り感のある子が気になります。

学習障害(ＬＤ)が広く知られてきたのに、「知的な発達の遅れがないのに、読み、書き、算数などで困る子どもたちは、気づいてもらえなければ、学力はどんどん低下してしまいます。そして、怠けているのだと思われたり、「なぜ出来ないの?」と責められたりして、どんどん自信をなくしていくこともあるでしょう。

「ひまわりがらのメッセージ」の六十五号にも読み書きのことを



書きましたが、もう少し分析して書いてみようと思います。

へき声言語の発達

文字を読むことができるようになる背景には、まず音声言語の発達が必要です。子どもは、一歳すぎから、「マンマン」「ワンワン」などの単語で話し始め、二語文、三語文というように、だんだんと長い文章で話すようになります。知っていることばの数(語い数)も増えて、四、五歳になると、接続詞や接読助詞を使って表現できるようになっていきます。

ことばを話すことが、読むことの大前提ですが、では、話せるようになればいいかというところではありません。読むためには、もう一つの背景が必要です。それがモーラということばです。

へ音韻の認識



私たちのことばを考えたとき、例えば、「うなぎ」は三つの音のかたまりです。「かたつむり」は五個です。このように日本語の音の単位のことをモーラと言います。モーラを認識できるようにするのが五歳の頃です。促音の入った「きっぷ」も三五音、長音を含んだ「ぶどう」も三音です。しかし、音節としては二つです。この音韻の認識ができていないと、ひらがなの読み書きの困難が出てきます。年長児が「しりとり遊び」がで

きるのは、音韻認識ができるからなのです。日本語は一音が
 モーラなので分かりやすいのですが、特殊音節といわれるもの
 は、一対一対応から外れてしまうので、子どもたちは困ってしま
 うのです。特殊音節というのは「拗音(きゃべつ)」「促音(は
 っ)」「長音(おおかさん)」「撥音(りんご)の四つですが
 子どもたちの中には、「きゃべつ」を「きゃべつ」、「はっ」を「は
 っ」と読んでしまう子もいます。「はっ」を「はは」、「ぶどう」
 を「ぶど」と書いてしまうこともでてくるのです。

へひらがな読み書きの基礎スキル

ひらがな読み書きの基礎スキルというのは、①モーラ分解







②音韻抽出、③音とかな文字を対応させると言われます。

しかし、その前に文字のかたまりとしてとらえる力が実は必要で
 す。保育園のロッカーに示された自分の名前と、友だちの名前
 の文字のかたまりを見て、「ここが私のロッカー」と分かるのは、文
 字が読めるからではないのです。

そして、その中に「あ」の字を見つけたり、「い」の字を見つけ
 たりしていくのです。小学校の支援級の子どもたちに最初から
 音と文字対応で教えていくと、遂次読みになってしまったりする
 ので注意が必要です。

単語がいくつの音からできているのが、手を叩きながら教えたり
 次のように絵をつかってモーラ教を教えることなど、年長児のあ













そびの中で是非取り入れてほしいものです。

		
○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	● ○ ○ ○ ○
		
○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○

<いくつかの音かな?>

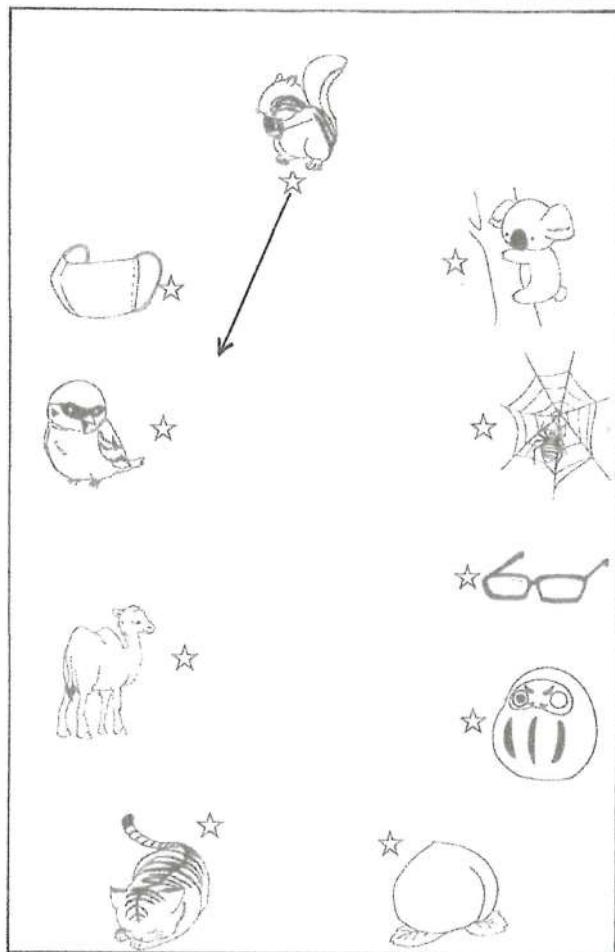
読み書きが苦手な子どもへの<基礎>トレーニングワーク
 (明治図書より引用) ※ ワークはコピー

②の音韻抽出というのは、例えば「さかな」ということばの中
 に「さ」の音があるかどうかということなのです。

<「か」のつく ことばに○をつける>

また、しりとりあそびとして、クラスやグループで遊ぶことのほかに、個別ワークとして「しりとり線」なきもやってみられるといいでしょう。




小学生になって、ひらがなで困る子どもたちの中には、こういうことが基礎として身につけていない子もいます。幼児期の話しことば、モイラ、音韻抽出など、もう一度見直してあげたいものです。

へ 読みのアセスメント MIM

これは、小学校一年生の段階で、クラス全体の子どもを対象に読みの困難さがないかどうかを見て、指導に生かすために作られているツールです。CDとワーク、カードがセットになっています。

例えば、下の絵は何なのか正しい読み方を選んでいくのです。カードもついていて特殊音節も入っています。



1 うばわき
2 うわはき
3 うわばき

又、次のように、いくつもの単語が並べてあって、どこで区切って読むのか、結構むづかしいことも混じっているワークです。

一文字ずつしか読めなかつたり、何のことだか分かりませんね。とにかく低学年のうちには本人の困り感を見つけてあげたいものです。私たちにできることは、本人が困っている要因を分析して、どの様に配慮し、支援してあげられるかということなのですから……。

おっとせいなつとうねっしん
じゅんばんおうじょおたまじゃくし
ひょうたんちゅうがくせいけんきゅう
ホットケーキロケットジャングル

お知らせ

LDのアセスメントは来年出来る予定です。どうぞです。(LD学会)

十二月十一日が親の会です。十一月親の会は、就労について考えます。